

交流会『また逢う日まで』



全員集合！ 「発見と発展」の交流会

第3部は、ゲストやスタッフ、出展者、そしてもちろん参加者も、一同に介した交流会！ユースシンポジウムの1日を通して感じたことをふりかえり、記憶に残してもらえる時間になればと願い開催しました。予想をはるかに上回る参加で、熱気がありました。はじめに、藤田副市長から参加した感想やそれぞれの活動の姿に激励の言葉をいただきました。参加者からも、抽選で4名に感想をいただきました。その後は、茶菓子を囲みながら思い思いにふりかえる時間となりました。

交流会でどんな話をしましたか？大学生に聞いてみたところ、異年代の働いている方から「経験したことは、直接ではないにしても必ずどこかで役に立つ。どんな職業についても自分の持っているセンスを活



かす機会はあるので、チャレンジしたことは確実に自分の糧になる。」と言ってもらえたとのこと。それまでは取り組んできたことと将来がつながっていなかったということで、「考えを改める機会になった」と話してくれました。

多彩なチャレンジと支える力



登壇者として若者を招いたり、実行委員会が企画をしたりと、当日を迎えるまでに多くの若者が関わってくれました。なかには貴重な夏休み期間にインターン生として関わってくれる学生の姿もありました。当日、第2部トークフリマを開催している中、ほっと

30名による協働運営、 高校生Caféもオープン！



情報交換ができる場として設けた「休憩処」もインターン生によるプロデュースです。『人生はサバイバル!!』というテーマから連想して、人工芝を敷き詰めた空間演出がなされました。

また、入り口付近に構えていたのは、高校生プロデュースによる出張caféコーナー「Café Violet」です。青少年活動センターでCaféをプロデュースしてきた彼女たちですが、今回はイベント型出店に初挑戦。大学生スタッフといっしょに、ほっこり時間を演出してくれました。

会場全体を巡るためにスタンプラリーを企画・準備してくれたのもインターン生。対談会の司会は2年連続で高校生が務めるなど、当日のみのスタッフも含めると30名もの若者が、それぞれのかかわり方で、ユースシンポジウムという場を創ってくれました。



人生いろいろ!?

いろんな「すぎ。」のカタチがある。いろんな「サバイバル」のカタチがある。
みんな違うし、みんなそれでいい気がする。参加者の声を集めました。

自由に表現してみてください！

第2部トークフリマ「愛」のカテゴリー部屋で、参加型のコーナーを設けました。100人100色の「すぎ。」～あなたの「すぎ。」は何色ですか？～色も言葉も表現の仕方も、それぞれの「すぎ。」のカタチが集まりました。



グッズ開発『サバ缶』

実行委員会の挑戦として、オリジナルグッズ開発がありました。ユースシンポジウムの場を応援してくれる方との一体感をもてるように、そしてグッズとしても魅力であるように、サバイバル缶バッジ=通称『サバ缶』が生まれました。選んで楽しい6種類のサバ缶は、当日240個以上も売り上げました☆



デコレーション×コトバ

ドットや輪郭、全ての面、カラフルに彩られたハートの一つひとつには思い思いのコトバも寄せられました。「何にでも染まるこの色!」「今までの出会い」「ただ、となりにいてくれればいい。」「kirakira kyunkyun」「服とインテリア」

日々、是、サバイバル!!? ～それぞれのサバイバル～

「すぎ。」のカタチも、『サバ缶』の種類もいろいろ。若者たちのサバイバルもいろいろ!? そもそも、「本当にサバイバルなの?」参加者に聞いてみました。

「就職活動がまさにサバイバルですよ!」「恋人との付き合い方」「大学受験に失敗してフリーターをしつつ、専門学校に進んで就職する道を選んだけど、本当にそれでいいのかな。これからどう生きていく?」「自分が何をしたいのか、まだ見つからない。」そんな若者たちにとって、この場はどんな意味があったのでしょうか?

「タイムラインをやってみて、平凡だと思っていた自分の

人生がけっこう波があって嬉しかった。」「いろんな人の考えを聞いて参考になった。」「普段会わない人だから話せることってある。恋バナもしたし、相談ができて良かった!!」

きっとサバイバルな局面はカンタンには打ち破れないのかもしれない。人生のいろんなステージで向き合うのかもしれない。だからこそ、誰かと語り合える場が必要なかもしれない。色とりどりの「すぎ。」のカタチや『サバ缶』が、この日の出会いを濃くして、一人ひとりのサバイバル観を磨いていってくれると嬉しいです。